

お城たより

No. 9
2006.4.1



写真:福岡城跡(桜の風景)

福岡市は今や人口140万人を数え、韓国や中国を始め国内外から多くの人々が行き交うアジアの交流拠点都市として発展を続けております。現在のこの街の活力は歴史的にはどのようにして育まれてきたのでしょうか。その要素はいろいろ挙げられます。古来より気候温暖で居住に適した地であり、博多湾に抱かれ大陸との交流が活発に行われた日本文化流入の窓口として発展してきた街であること等々です。その一つに現在の彼の地に福岡城が築かれたこと、即ちあの地を古代大陸との外交通商の拠点として選び、あるいは近世に至り城郭を築くにふさわしい地として選んだ先人の先見性が挙げられるのではないか。鴻臚館(当初は筑紫館)は、存知のとおり奈良、平安時代に500年の間我が国の国際的交流の場、国立の迎賓館として活躍しました。遣唐使、遣新羅使がここから出国し、唐、新羅から来朝する使節の応接が行われ、唐や宋の中國商人達も来訪し、賑やかな応接が行われたことでしょう。これらの人々との文化交流、商取引によって向かい側の博多の街も活気に溢れたと思います。鴻臚館はその後歴史から消えていきますが、博多の街は中世時代我が国有数の国際港湾都市として発展していきます。鴻臚館が置かれたのは現在の平和台球場跡であります。が、当時は低い丘陵が南北から延び、東も西も海が内湾のように入り込んでいたその丘陵の先端付近であります。現在の天神も大名も海の中でした。そしてその土地に後世(1601年)慶長六年)黒田如水、長政父子が大城郭を築き、地名を祖先の地に因み「福岡」と改めたのであります。城郭の候補地はいくつかあったようですが、結局博多に隣接したこの地を選んで福岡城を築いたことは現在ふたごといつてよいでしょう。福岡藩黒田家はその後二回の国替えも改易もなく、江戸幕府との適切な関係を維持し、福岡博多の学術文化産業の振興に努め明治維新を迎えます。明治以降各種の博覧会の実施、九州帝大の誘致等先人の先見的事业により本市発展の礎が築かれました。福岡市博物館はこのような二千年に亘る郷土福岡の歴史に関し、黒田家を中心とした市民の皆様の協力により多くの実物資料を収集、展示しております。どうか今後もこれら輝かしい福岡博多の歴史と民俗について研究し、子供たちに教え繋いでいく拠点として市博物館を活用していただきたいと願っております。



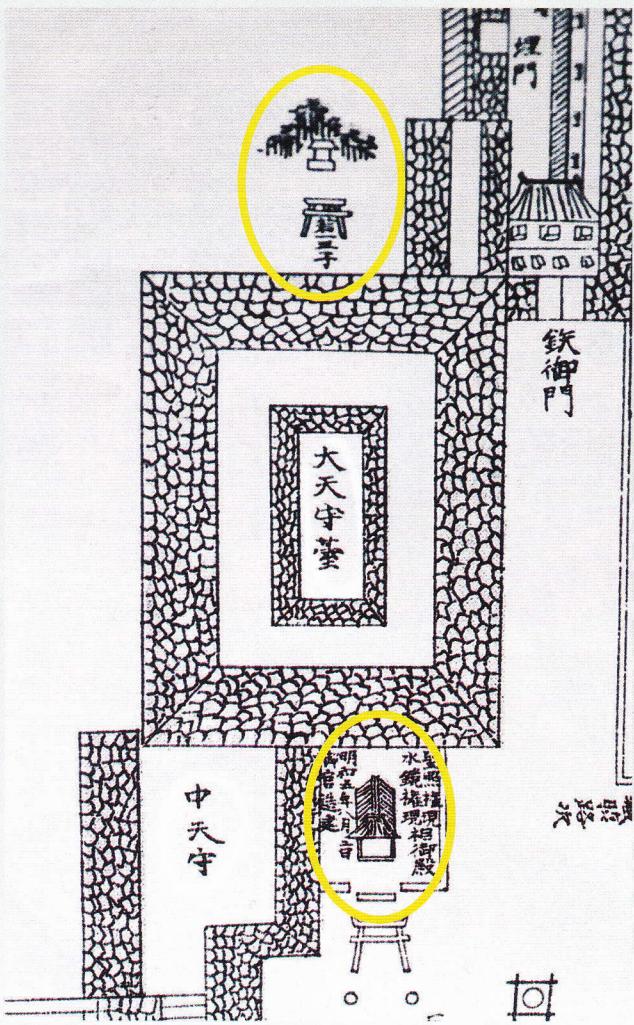
鴻臚館、福岡城の研究の拠点
福岡市博物館 館長 西 憲一郎

福岡市は今や人口140万人を数え、韓国や中国を始め国内外から多くの人々が行き交うアジアの交流拠点都市として発展を続けております。現在のこの街の活力は歴史的にはどのようにして育まれてきたのでしょうか。その要素はいろいろ挙げられます。古来より気候温暖で居住に適した地であり、博多湾に抱かれ大陸との交流が活発に行われた日本文化流入の窓口として発展してきた街であること等々です。その一つに現在の彼の地に福岡城が築かれたこと、即ちあの地を古代大陸との外交通商の拠点として選び、あるいは近世に至り城郭を築くにふさわしい地として選んだ先人の先見性が挙げられるのではないか。鴻臚館(当初は筑紫館)は、存知のとおり奈良、平安時代に500年の間我が国の国際的交流の場、国立の迎賓館として活躍しました。遣唐使、遣新羅使がここから出国し、唐、新羅から来朝する使節の応接が行われ、唐や宋の中國商人達も来訪し、賑やかな応接が行われたことでしょう。これらの人々との文化交流、商取引によって向かい側の博多の街も活気に溢れたと思います。鴻臚館はその後歴史から消えていきますが、博多の街は中世時代我が国有数の国際港湾都市として発展していきます。鴻臚館が置かれたのは現在の平和台球場跡であります。が、当時は低い丘陵が南北から延び、東も西も海が内湾のように入り込んでいたその丘陵の先端付近であります。現在の天神も大名も海の中でした。そしてその土地に後世(1601年)慶長六年)黒田如水、長政父子が大城郭を築き、地名を祖先の地に因み「福岡」と改めたのであります。城郭の候補地はいくつかあったようですが、結局博多に隣接したこの地を選んで福岡城を築いたことは現在ふたごといつてよいでしょう。福岡藩黒田家はその後二回の国替えも改易もなく、江戸幕府との適切な関係を維持し、福岡博多の学術文化産業の振興に努め明治維新を迎えます。明治以降各種の博覧会の実施、九州帝大の誘致等先人の先見的事业により本市発展の礎が築かれました。福岡市博物館は

福岡城こぼれ話

福岡城にゆかりの 三つの神社について

荻野 忠行



(図1) 福岡城天守閣聖照権現・水鏡権現→光雲神社

博多古図でみますと福岡城築城以前の福崎の地には、「警固大明神」と「若二王子」(明和五年月音)という神社が描かれています。「光雲」(てゆも)馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市国途中に感謝して神功皇后が建立されたと伝えられています。寄進も多く藩主忠之

の産土神ともなります。ここには東照宮絵馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市教委で調査中です。

二 「若二王子社」は移築されなく天守石垣のすぐ西側に鳥居と祠が残されます。これと類似の神社は熊野(和歌山県)に見られます。紀伊熊野(世界遺産指定)の信仰は後白河院の熊野権現熊野詣でとして全国的に十二世紀頃から信仰が高まっています。北九州でも求菩提山・宝満山・英彦山などの山伏修道が盛んになります。

彼等の竈門山山伏は福岡城の若二王子社にいた頃家臣と共に、求菩提山の桜狩に行つた時座主拷貴の亭にて詠まれた「和歌十三首」があります。これら家臣等の和歌は華麗な短冊に墨書きされており護国寺跡(国玉神社)に残つていましたが、現在は「求菩提山資料館」で見ることが出来ます。その時



(図3) 求菩提山資料館(右が如水歌)

新しく築城される城の命名の由来については有名な和歌があります。如水が太宰府天満宮に仮寓している時、慶長七年(二六〇二)正月十六日に長政公等を招いて「夢想之連歌会」を開きます。その時の最初の歌に「ふく岡」(福岡)が見られます。

「松むめや末なかれとみとりたつ山よりつくさとはふく岡」円清(如水)

博多古図でみますと福岡城築城以前の福崎の地には、「警固大明神」と「若二王子」(明和五年月音)という神社が描かれています。「光雲」(てゆも)馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市

神社」は描かれておりません。来年は光雲神社が西公園に遷座して百年にあたり現在寄附を求めておられます、「一、警固明神は、築城にあたり警固神社として、現在の天神に移築遷座されます。」由緒によりますと神功皇后が朝鮮半島に行くとき警固大明神が出現し軍船を守護されたので、帰国途中に感謝して神功皇后が建立されたと伝えられています。寄進も多く藩主忠之の産土神ともなります。ここには東照宮絵馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市

と伝えられています。寄進も多く藩主忠之の産土神ともなります。ここには東照宮絵馬があり、大型の「東照宮模型」は現在市



(図2) 東照宮絵馬(警固神社)

三 「光雲神社」は創立過程が独特で、他の二社とは異なります。明和五年(一七八八)に六代藩主継高が本丸天守台東側に社殿を建て、黒田長政を聖照権現と崇め、また安永二年(一七七三)黒田如水を水鏡権現と称し、共に合せ祭られました。(岡1)しかし、贋造事件もあって明治四年(一八七一)藩置県となり黒田家は東京へ移転されます。旧藩士や有志等は十二代藩主長溥へ拝謁します。明治五年、旧社地小島吉祥院跡(天神)へ奉遷し、両神号をもつて「光雲神社」と命名し、明治八年(一八七五)「県社」に昇格。その後荒津山は地域の人と県によって桜の樹等植樹し整備され、光雲神社は明治四十年(一九〇七)荒津山の東照宮跡西公園に遷座します。昭和二十年の福岡大空襲で惜しくも焼失しましたが、多くの人の寄附で昭和四十二年(一九六六)再建されました。

の如水の歌、「山ふかく分入花のかつ散りて春の名残もけふのゆふ暮」円清

三 「光雲神社」は創立過程が独特で、他の二社とは異なります。明和五年(一七八八)に六代藩主継高が本丸天守台東側に

社殿を建て、黒田長政を聖照権現と崇め、

また安永二年(一七七三)黒田如水を水鏡

権現と称し、共に合せ祭られました。(岡

1)しかし、贋造事件もあって明治四年(一八七一)藩置県となり黒田家は東京へ移転されます。

旧藩士や有志等は十二代藩主長溥へ拝謁します。明治五年、旧社地小島吉祥院跡(天

